

## 特発性肺線維症における平均肺動脈圧上昇の予測式構築に関する検討

特発性肺線維症 (IPF) は、肺の線維化が進行性に悪化し、生存期間中央値が 2~3 年と予後不良の疾患です。IPF において、平均肺動脈圧の上昇は重要な予後因子の一つですが、診断には右心カテーテル検査が必須です。しかし右心カテーテル検査は侵襲的な検査であるため、今後右心カテーテル検査を行った方が良い方を選択していく必要があります。このため、非侵襲的検査の組み合わせによって平均肺動脈圧の上昇している方を予測する式を構築する必要があります。

そこで、2007 年 4 月~2015 年 7 月に、公立陶生病院で IPF と診断された患者さんの中で肺動脈圧が上昇している患者さんを、非侵襲的検査の組み合わせで予測する方法を検討するため、該当する患者さんの診療情報を収集して解析を行います。

この研究では、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報を厳重に保護しています。上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師・古川大記（電話 0561-82-5101）までご連絡いただければ幸いです。

研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 谷口 博之  
研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 近藤 康博  
研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 古川 大記